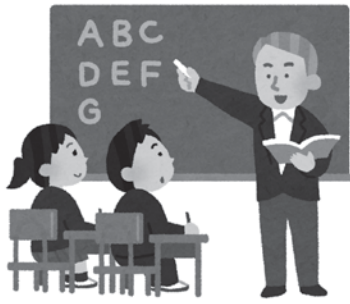


保健福祉学部 教養教育部 教授 小古間 甚一



本学の1・2年生の英語(必修)は8クラスの習熟度別編成で、私は英語を苦手とする学生のクラスを担当しています。苦手クラスを担当する理由の1つに、私が高校時代に英語が苦手だったことがあります。とにかく英語が読めませんでした。しかしながら、そのことが英語が苦手な学生に英語を教えるのにとっても役立っています。今回のコラムでは、私が英語をどのように学習し、教える際にその経験をどのように生かしているかをお話します。英語学習で悩んでいる方の参考になれば幸いです。

私が大学受験に失敗し予備校に通ってショックだったのは、高校までの英語学習方法が間違っていたということです。教科書の英文をノートに書き写し、日本語訳を書く。試験のときには訳文と欄外の熟語を暗記する。これは、定期試験で高得点を取るには効率的な方法ですが、英語そのものを学んでいない最悪の学習法でした。その問題に気づいたきっかけは、「英語は左から右に書かれているので、読むときは左から右に読む」「英語を英語で理解する」という予備校の先生の一言でした。当たり前のことですが、これができるいませんでした。ただ、英文を読むといっても、内容がわからないまま英語を目で追っているだけでは意味がありません。そこで、予備校の先生が教えてくれた学習法は、単語の意味、文章構造、文法事項をすべて理解した英

文(予備校の教科書2〜3ページ)を声に出して300回読む、というものでした。1日10回、合計200回ぐらいでギブアップしましたが、英語の思考の流れに沿って読む、つまり「英文を読む」感覚がようやくわかりました。この感覚が身に付けば、後はスムーズに英文を読むために文法を学び、語彙を増やしていけばよいのです。今はやりの英語学習法「シャドーイング」の基礎段階みたいなものです。語彙を増やすのは大変でした。1日10個の単語を覚えるのは簡単ですが、語彙を増やすには「覚える努力」と同時に「忘れない努力」が必要だからです。まず、カードに書いた単語・熟語を定期的に見直しました。また単語の意味の確認と英文読解力向上のために500〜1000語レベルの英語の本、夏休み以降は150



0〜2000語レベルの英語の本を毎日数ページ、日本語に訳しながら読むのではなく、文脈を捉えながら読むようにしました。読むスピードが速くなるにつれて英語を読むことが楽しくなりました。私にとって、この頃が本格的な英語学習の始まりだったと思います。ただ、高校までの英語学習が無駄だったということではありません。中学生のときに全文書き換え問題を通して鍛えられた文法力は、その後の英語学習の基礎になっています。その意味では、中学生レベルの英語の文法はたいへん重要です。文法は数学の公式で、単語は数字みたいなものかもしれません。習得に数年かかる英語の使い方を数行で説明してくれる文法の本は、まさに英語習得への近道なのです。

名寄市立大学の平成28年度決算状況をお知らせします

収入		金額	支出		金額
運営経費	一般財源(地方交付税・学生数)	12億9,294万2,000円	運営経費	人件費	10億7,377万4,000円
	授業料・諸納付金	4億8,353万円		物件費・維持補修費・補助費等ほか	3億7,783万2,000円
	入学料・受験料	6,447万8,000円		備品費等	1億1,904万7,000円
	その他	4,414万4,000円	運営経費支出計		15億7,065万3,000円
	運営経費収入計	18億8,509万4,000円	設備投資	設備投資費	20億9,102万9,000円
設備投資	一般財源(地方交付税・公債費)	2,845万3,000円		公債費(償還金)	1億3,160万4,000円
	市債	18億6,310万円		設備投資支出計	
	基金等繰入	2億5,200万円	支出合計額		37億9,328万6,000円
	国・道支出金	4,489万6,000円	積立金		金額
設備投資収入計		21億8,844万9,000円	利息分として		7万7,000円
収入合計額		40億7,354万3,000円	積立金合計額		7万7,000円

◆問い合わせ 名寄市立大学事務局総務課 ☎01654②4194